

歴史 | 探訪

~文化財を巡る~①

昨年行った市民広報アンケートでの要望に応えた新企画です。

今回から、シリーズで、豊岡の文化財を紹介します。皆さんの身近にある文化財を見ていきましょう。《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

「神社建築」(その1)

神社は、初詣でや宮参り、七五三、新車の安全祈願など、新たに何かを始めるときにお参りに行くことが多いですが、その建物をしげしげと眺めたことはないと思います。神社の造りがどうなっているのか、本殿の建築様式を中心に見ていきましょう。

神社は、参拝や祈禱をする「拝殿」の奥に、御神体をまつる「本殿」が建てられています。本殿は神聖な場所とされているため、垣で囲まれていたり、覆屋があつたりして普段は見る事ができなくなっていることもあります。

酒垂神社本殿(国指定)法花寺

一間社流造、こけら葺。文安元年(1444年)建立。棟札や墓股に書かれた墨書などに、造営開始や遷宮の年代、修理の年代、また造営にあつた大工の名前まで書かれています。大工は「伴大夫伴久清」で、中嶋神社本殿の造営にもあつたとされています。



墓股の細工が美しく、覆屋があるため彩色もよく残っています。昭和44年に全面解体修理をしました。

中嶋神社本殿(国指定)三宅

二間社流造、檜皮葺。正長元年(1428年)建立。神社に残されていた棟札を写した文書に、大工「大伴半太夫久清」と書かれていました。二間社は珍しく、斗栱や墓股などに絵画的な彫刻が多く用いられており、市内で一番古い神社建築です。昭和15年に全面解体修理され、今年、35年ぶりに屋根の全面葺き替えと壁面の塗り替えをしました。



久久比神社本殿(国指定)下宮

三間社流造、こけら葺。永正4年(1507年)建立。昭和46年の全面解体修理の際に見つかった肘木の上に残されていた墨書で、酒垂神社や中嶋神社よりも後の時代に造られたことが分かりました。二社に比べて男性的なおもむきがあり、細かな彫刻が施されているのが特徴です。



平成12年に屋根の全面葺き替えをしています。

語句の解説

- ・一間社…正面の柱間が一つの神社本殿。
- ・流造…全国的に一番多い神社本殿形式。屋根に緩やかな反りを付け、前面の屋根が流れるようにのびる。
- ・こけら葺…スギ・サワラ・ヒノキなどの厚さ3mm、幅9cm程度の薄い削り板で屋根を葺く。
- ・檜皮葺…檜の皮で葺いた屋根。屋根の部分によって長さや幅を代える。口に含んだ竹釘で、檜皮を少しずつずらしながら止めていく。
- ・墓股…梁の上で、桁や棟木などの荷重を支える横広りの部材。蛙が股を広げたような形をしている。
- ・斗栱…柱の上にあつて、軒を支える装置。方形の斗と水平を受ける肘木で構成される。

●発行/豊岡市
☎079661231111
FAX2411004
●編集/政策調整部秘書広報課
FAX2412575

〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

(総合支所)
・竹野 ☎47-311111
・日出 ☎52-311111
・但東 ☎54-4232-110011
・城崎 ☎100011